

リウマチ通信

Vol. 53

2021年11月号

ステロイド薬のお話

私たちの身体の中にある副腎（ふくじん）という臓器の皮質は、生命を維持するのに必要なホルモン（糖質コルチコイドと鉱質コルチコイド）を産生しています。

鉱質コルチコイドは、主に体の中のナトリウムの量や水分を調節し血圧維持などの役割を担っています。糖質コルチコイドは、ストレスから体を守ったり、炎症を抑制したり、糖やたんぱく質・脂質などの代謝に関係したりするホルモンです。

この糖質コルチコイド・ホルモンを薬として応用したものがステロイド薬で、飲み薬・注射・ぬり薬などがあります。

膠原病や関節リウマチの治療には、主に飲み薬のステロイド薬が使用されています。疾患によってはステロイド薬を大量に、あるいは少量をある程度の期間服用することとなります。そして症状が落ち着いてくると服用量を徐々に減らすこともあります。

※関節リウマチの治療においては、治療早期に他の抗リウマチ薬が効いてくるまでの“橋渡し”として使用することがあります。抗リウマチ薬が効いてきたら、できるだけ早くステロイド薬の減量・中止が推奨されています。

ステロイド薬は、炎症をしずめたり、異常な免疫反応を抑えたりすることにより、さまざまな疾患の治療に使われます。一方副作用にも注意が必要で、服用量や服用期間、その人の素因により様々なものが知られています。

主な副作用と対策

易感染：過剰な免疫機能が抑えられることで感染症にかかりやすくなります。

手洗いやマスクなどの感染対策をすること、また感染予防のための薬を服用したりワクチン接種を勧めることもあります。咳や発熱などいつもと違う症状があれば早めに相談してください。

骨粗鬆症：骨量や質を低下させるため骨折しやすくなります。

ビタミンDやカルシウム剤、骨粗鬆症治療薬を服用したり注射したりして予防します。

糖尿病：糖を作らせたり、血糖値を下げるインスリンの作用を抑制したり、また食欲を亢進させることもあり血糖値が高くなります。

食事療法や運動療法による予防、インスリン注射や薬によって治療をすることもあります。

消化性潰瘍：胃や十二指腸に潰瘍ができやすくなり、痛み止めを併用している場合は注意が必要です。

胃酸を抑える薬や胃を保護する薬を服用して予防します。

精神症状：気分が高ぶったり不眠、うつ傾向になったりすることもあります。

安定剤や睡眠薬、抗うつ薬を服用します。

高脂血症・動脈硬化、高血圧症

：コレステロールや中性脂肪が増える、ナトリウムが増えることなどで起こります。

食事療法を行います。必要により高脂血症治療薬や降圧薬を服用します。

血栓症：血管の中で血液が固まってしまう血栓症が、起こりやすくなります。

予防的に抗血小板薬を服用することがあります。

ほかにも白内障・緑内障など目に影響がでることもあり、定期的な眼科受診が必要です。

このようにいろいろな副作用の可能性がありますが、怖がって自己判断で急にステロイドの服用を中止してしまうと、かえって疾患が悪化してしまったり、倦怠感、吐気、発熱、血圧低下、関節痛、筋肉痛、食欲不振などいわゆるステロイド離脱症候群となり、ときにショックをおこすことがあります。

ステロイド薬は、副作用に上手く対処し正しく服用することで、最大の効果を得ることができます。

★当院でよく使用されるステロイド薬の例



プレドニン錠 5m g



プレドニゾロン錠 1m g



メドロール錠 4m g



リンデロン錠 0.5m g

(文責 薬剤師 大西 薫子)